

【NO 479】

令和3年3月

令和3年石垣港大型客船入出港に伴う 航行安全対策調査専門委員会

1 委員会報告書概要

本委員会では、石垣港での、令和2年度末時点の岸壁及び航路・泊地の整備状況における16万総トン級及び14万総トン級大型客船を対象とした受け入れ計画に関し、その入出港及び係留の安全性について調査・検討し、必要な航行安全対策を取りまとめた。

本委員会に先立って開催された令和2年の「石垣港大型客船入出港に伴う航行安全対策調査専門委員会」においては、22万総トン級及び14万総トン級大型客船を対象に、予定されている整備の完了を前提として調査・検討を行ったが、本委員会では航路・泊地の整備進捗の関係から、より制約された操船水域を検討の前提条件としたため、回頭水域の直径は対象船舶の全長の1.5倍から1.6倍程度となり、入出港操船の難易度が上がることが予想された。

今回の入出港の安全性の検討では、ファストタイム操船シミュレーションによる外力影響の判定において回頭操船水域の制約による影響が相対的に大きく現れ、ビジュアル操船シミュレーションにおいても回頭操船時の浅所等への圧流等が懸念される結果となった。これらの実験結果を受け、操船余裕等を総合的に勘案のうえ、安全に入出港可能な条件を取りまとめるとともに、操船水域の制約に関する注意喚起のためECDISの活用等を提言した。

2 調査等概要

- (1) 調査計画
- (2) 受入計画の概要
- (3) 航行環境
- (4) 港湾の施設の技術上の基準との関係
- (5) 入出港の安全性に関する基礎検討
- (6) ファストタイム操船シミュレーション
- (7) ビジュアル操船シミュレーション
- (8) 入出港操船に関する安全性の検討
- (9) 係留の安全性の検討
- (10) 航行安全対策